

NetBackup™ アップグレード クイックスタートガイド

リリース 10.1

VERITAS™

NetBackup™ アップグレードクイックスタートガイド

最終更新日: 2022-10-21

法的通知と登録商標

Copyright © 2022 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、NetBackup は、Veritas Technologies LLC または関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、Veritas 社がサードパーティへの帰属を示す必要があるサードパーティ製ソフトウェア（「サードパーティ製プログラム」）が含まれる場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。このVeritas製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所から入手できます。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載されている製品は、その使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されます。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

本書は、現状のまま提供されるものであり、その商品性、特定目的への適合性、または不侵害の暗黙的な保証を含む、明示的あるいは暗黙的な条件、表明、および保証はすべて免責されるものとします。ただし、これらの免責が法的に無効であるとされる場合を除きます。Veritas Technologies LLC およびその関連会社は、本書の提供、パフォーマンスまたは使用に関連する付随的または間接的損害に対して、一切責任を負わないものとします。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

ライセンスソフトウェアおよび文書は、FAR 12.212 に定義される商用コンピュータソフトウェアと見なされ、Veritasがオンプレミスまたはホスト型サービスとして提供するかを問わず、必要に応じて FAR 52.227-19 「商用コンピュータソフトウェア - 制限される権利 (Commercial Computer Software - Restricted Rights)」、DFARS 227.7202 「商用コンピュータソフトウェアおよび商用コンピュータソフトウェア文書 (Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation)」、およびそれらの後継の規制に定める制限される権利の対象となります。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC
2625 Augustine Drive
Santa Clara, CA 95054

<http://www.veritas.com>

テクニカルサポート

テクニカルサポートはグローバルにサポートセンターを管理しています。すべてのサポートサービスは、サポート契約と現在のエンタープライズテクニカルサポートポリシーに応じて提供されます。サ

ポート内容およびテクニカルサポートの利用方法に関する情報については、次の **Web** サイトにアクセスしてください。

<https://www.veritas.com/support>

次の URL で **Veritas Account** の情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

現在のサポート契約についてご不明な点がある場合は、次に示すお住まいの地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

世界共通 (日本を除く)

CustomerCare@veritas.com

日本

CustomerCare_Japan@veritas.com

マニュアル

マニュアルの最新バージョンがあることを確認してください。各マニュアルには、2 ページ目に最終更新日が記載されています。最新のマニュアルは、**Veritas** の **Web** サイトで入手できます。

<https://sort.veritas.com/documents>

マニュアルに対するご意見

お客様のご意見は弊社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの誤謬脱漏などの報告をお願いします。その際には、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。ご意見は次のアドレスに送信してください。

NB.docs@veritas.com

次の **Veritas** コミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問したりすることもできます。

<http://www.veritas.com/community/>

Veritas Services and Operations Readiness Tools (SORT)

Veritas SORT (Service and Operations Readiness Tools) は、特定の時間がかかる管理タスクを自動化および簡素化するための情報とツールを提供する **Web** サイトです。製品によって異なりますが、**SORT** はインストールとアップグレードの準備、データセンターにおけるリスクの識別、および運用効率の向上を支援します。**SORT** がお客様の製品に提供できるサービスとツールについては、次のデータシートを参照してください。

https://sort.veritas.com/data/support/SORT_Data_Sheet.pdf

目次

第 1 章	『NetBackup クイックスタートアップグレードガイド』 について	5
	『NetBackup クイックスタートアップグレードガイド』について	5
第 2 章	Windows アップグレードクイックスタートガイド	7
	NetBackup 10.1 へのアップグレードのプレインストール手順	27
	Windows システムでローカルサーバー、リモートサーバー、クラスタサー バーのアップグレードを実行する	11
	NetBackup 10.1 へのアップグレードのインストール後の手順	36
第 3 章	UNIX/Linux アップグレードクイックスタートガイド	27
	NetBackup 10.1 へのアップグレードのプレインストール手順	27
	NetBackup 10.1 への Linux サーバーソフトウェアのアップグレード	31
	NetBackup 10.1 へのアップグレードのインストール後の手順	36

『NetBackup クイックスタートアップグレードガイド』について

この章では以下の項目について説明しています。

- 『NetBackup クイックスタートアップグレードガイド』について

『NetBackup クイックスタートアップグレードガイド』について

このマニュアルの目的は、『NetBackup アップグレードガイド』を経験豊富なユーザーに向けて補足することです。このマニュアルの使用は、初心者または経験の浅い NetBackup 管理者には推奨されません。経験の浅い管理者は、『NetBackup アップグレードガイド』を使用してください。

メモ: このマニュアルに含まれる情報はすべて『NetBackup アップグレードガイド』にも記載されています。Veritas この情報は、経験豊富なユーザー向けに別の形式で提供しているものです。『NetBackup アップグレードガイド』にご不満がない場合、このマニュアルを参照する必要はありません。

このマニュアルに記載の情報は、ユーザーがアップグレードの前提条件をすでに読み、理解していることを前提としています。ユーザーが必要な計画手順をすでに実施しており、アップグレードにかかる時間を把握していることを前提としています。ユーザーが『NetBackup リリースノート』に記載されている変更をすべて把握していることを前提としています。

注意: このマニュアルの使用中に不明な手順や手続きがあったり、疑問が生じたりしたときは、『NetBackup アップグレードガイド』で詳しい情報を参照してください。『NetBackup アップグレードガイド』には、アップグレードプロセスのすべての分野について詳しい情報が記載されています。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

Windows アップグレードク イックスタートガイド

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 10.1 へのアップグレードのプレインストール手順](#)
- [Windows システムでローカルサーバー、リモートサーバー、クラスタサーバーのアップグレードを実行する](#)
- [NetBackup 10.1 へのアップグレードのインストール後の手順](#)

NetBackup 10.1 へのアップグレードのプレイン ストール手順

次の手順を使って環境を NetBackup 10.1 にアップグレードします。

ガイド付き方式に必要な追加手順を実行できるようにするいくつかのツールを使用できます。詳しくは、**Business Critical Services (BCS)** の担当者にお問い合わせください。

NetBackup アップグレードに RHEL 7.5 へのアップグレードが含まれており、ファイバートランスポートメディアサーバー (FTMS) を使用する場合には、追加の手順が必要になります。詳細情報を参照できます。

『[NetBackup アップグレードガイド](#)』を参照してください。

メモ: Global Cluster Option (GCO) を使ってグローバルにクラスタ化されたプライマリサーバーを含む NetBackup のインストールでは、このマニュアルのアップグレード計画のガイドラインに従ってください。これらのサーバーをアップグレードする手順については、次のドキュメントを参照してください:

https://www.veritas.com/support/en_US/article.100041191

NetBackup 10.1 にアップグレードしてイメージメタデータの移行を完了するためのインストール前手順

- 1 SORT ツールを使用して環境チェックを実行します。
[『NetBackup アップグレードガイド』](#)を参照してください。
- 2 Veritas Usage Insights のカスタマ登録キーをダウンロードします。Veritas Usage Insights に関する詳しい情報を参照できます。
[『NetBackup アップグレードガイド』](#)を参照してください。

NetBackup 10.1 へのインストールとアップグレード中は、インストーラが `veritas_customer_registration_key.json` ファイルを最終的なインストール先にコピーするのを許可してください。NetBackup はこの処理を介してファイルの権限と所有権を正しく設定できます。インストールまたはアップグレード以外の処理でこのファイルをシステムに配置すると、処理は正しく動作しない可能性があります。

- 3 (該当する場合) Linux で、NetBackup データベースファイルが `btrfs` ファイルシステムに存在する場合、アップグレードの前に、サポートされているファイルシステム (`ext4` または `xfs` など) にデータベースファイルを移動します。`btrfs` ファイルシステムに NetBackup データベースを配置することはサポートされていません。データベースファイルは、プライマリサーバーのディレクトリ `/usr/opensv/db` に存在します。

Linux で NetBackup データベースファイルを移動するには:

- カタログバックアップを実行します。
- すべての NetBackup デーモンを停止します。
`/usr/opensv/netbackup/bin/bp.kill_all`
- SQL Anywhere デーモンを起動します。
`/usr/opensv/netbackup/bin/nbdbms_start_stop start`
- 既存のデータ、インデックス、トランザクションログファイルを移動します。
`/usr/opensv/db/bin/nbdb_move -data data_directory -index index_directory -tlog log_directory`
ミラー化されたトランザクションログを使用する場合、次のコマンドを使用します。
`/usr/opensv/db/bin/nbdb_move -data data_directory -index index_directory -tlog log_directory -mlog log_mirror_directory`
- すべての NetBackup デーモンを起動します。
`/usr/opensv/netbackup/bin/bp.start_all`
- カタログバックアップを実行します。

- 4 (該当する場合) Windows の場合は、すべてのオペレーティングシステムの更新プログラムとセキュリティ更新プログラムを適用してください。詳細情報を参照できます。
[『NetBackup アップグレードガイド』](#)を参照してください。

5 NetBackup の各自の環境に応じて通常実行するアップグレード前のタスクを実行します。次に例を示します。

- すべてのカスタマイズされたスクリプトやサードパーティのスクリプトを停止します。
- クラスタ固有のタスクを実行します。
- ホットカタログバックアップを実行します。
- すべてのストレージライフサイクルポリシー (SLP) を無効にします。
- **NetBackup** のすべてのポリシーを無効にします。
- **NetBackup 7.5.x** より前のすべての環境ですべてのディスクステージングストレージユニットを無効にします。
- **VMware** と **RHV (Red Hat Virtualization)** 環境では、アップグレードする前にジョブデータベースのサイズを削減します。アップグレード後に、資産レベルでのアクセス制御を可能にするため、既存の **VMware** ジョブと **RHV** ジョブに資産の名前空間が割り当てられます。この処理には時間がかかる場合があります。このプロセスに関する詳細情報を参照できます。

『[NetBackup アップグレードガイド](#)』を参照してください。

- クラスタシステムの場合のみ、次の **NetBackup** リソースをオフラインにします。
 - **Windows Server Failover Clusters (WSFC)**: ディスク、仮想名、仮想 IP アドレスを除くすべての **NetBackup** グループのリソースをオフラインにします。クラスタアドミニストレータインターフェースを使用して **NetBackup** グループのリソースをオフラインにする方法については、**Microsoft** のクラスタアドミニストレータに関するマニュアルを参照してください。
 - **Veritas Cluster Server (VCS) クラスタ**: **NetBackup** リソースをオフラインにします。

次のコマンドで **NetBackup** オプションを使用して `-persist` グループを固定します。

```
hagrp -freeze NetBackup_service_group -persistent
```

これらのリソースをオフラインで取得するコマンドについて詳しくは、『[NetBackup プライマリサーバーのクラスタ化管理者ガイド](#)』を参照してください。

6 (該当する場合) NetApp クラスタをノードスコープモードから **Vserver** モードに変更する場合は、各ファイラの詳しいイメージレポートを作成します。このレポートは `bpimagelist` コマンドを使って生成できます。次に利用可能なオプションの一例を挙げます。環境に合わせて必要なオプションを使います。

```
bpimagelist -client ndmp_host_name
```

- 7 NetBackup 8.0 より、NetBackup プライマリサーバーには、重要なバックアップ操作をサポートするための構成済み Tomcat Web サーバーが含まれます。この Web サーバーは、権限が制限されているユーザーアカウント要素の下で動作します。これらのユーザーアカウント要素は、各プライマリサーバー (またはクラスタ化されたプライマリサーバーの各ノード) で使用できる必要があります。詳細情報を参照できます。

『NetBackup アップグレードガイド』を参照してください。

メモ: ベリタスは、NetBackup Web サービスに使用するユーザーアカウントの詳細を保存することを推奨します。プライマリサーバーのリカバリでは、NetBackup カタログのバックアップが作成されたときに使われたものと同じ NetBackup Web サービスのユーザーアカウントとクレデンシヤルが必要です。

メモ: セキュアモードで NetBackup PBX を実行する場合は、Web サービスユーザーを PBX の権限を持つユーザーとして追加します。PBX モードの判別と、正しくユーザーを追加する方法については、次をご覧ください。

<http://www.veritas.com/docs/000115774>

- 8 (該当する場合) Tomcat Web サーバーの設定をカスタマイズした場合は、それらの設定がアップグレード後も維持されるかどうかを確認します。詳細情報を参照できます。

『NetBackup アップグレードガイド』を参照してください。

- 9 NetBackup とやり取りするシステムのすべてのアプリケーションを停止します。この手順には、バックアップ中のデータベースまたはシステムコンポーネントが含まれます。これらのアプリケーションの停止に失敗すると、予期しない動作が発生する可能性があります。観測される動作には中止されたアップグレードやアプリケーションエラーが含まれます。

Oracle ユーザーの場合は、バックアップが実行されていないことを確認します。NetBackup をインストールする前に、RMAN のプロセスを停止します。AIX を使用する場合、RMAN プロセスを停止した後、root ユーザーとして /usr/bin/slibclean を実行する必要があります。

Oracle データベースを停止できない場合、手順は Oracle データベースがアクティブのまま NetBackup をインストールできる手順を利用できます。このトピックに関する詳細情報を参照できます。

<http://www.veritas.com/docs/TECH158276>

- 10 NetBackup のすべてのサービスを停止します。

- UNIX システムの場合: /usr/openv/netbackup/bin/bp.kill_all

- Windows システムの場合: `install_path\NetBackup\bin\bpdown -f`

プレインストール手順は完了です。NetBackup のバイナリのアップグレードに進みます。

Windows システムでローカルサーバー、リモートサーバー、クラスタサーバーのアップグレードを実行する

ローカルコンピュータ、リモートコンピュータ、クラスタコンピュータで NetBackup 10.1 にアップグレードするには次の手順を実行します。

Windows でローカルサーバー、リモートサーバー、クラスタサーバーの NetBackup バイナリをアップグレードする方法

- 1 NetBackup のアップグレードを開始するシステムにログオンします。管理者権限でログオンしてください。
 - ローカルの Windows システムをアップグレードする場合は、コンソールでコンピュータに直接ログオンします。
 - リモートの Windows システムをアップグレードする場合は、NetBackup をインストールするホストすべてにネットワークアクセスが可能なシステムにログオンします。
 - クラスターの Windows システムをアップグレードする場合は、アクティブノード (共有ディスクが存在するノード) にログオンします。
- 2 ESD イメージ (ダウンロード済みファイル) が保存されているディレクトリに移動して、`Browser.exe` を実行して NetBackup インストールウィザードを起動します。
- 3 ブラウザの初期画面 ([ホーム (Home)]) で、[Installation] をクリックします。
- 4 [Installation] 画面で、[Server Software Installation] をクリックします。
- 5 [ようこそ (Welcome)] 画面で内容を確認して [次へ (Next)] をクリックします。
- 6 (該当する場合) 以前にこのホストに NetBackup 10.1 をインストールしている場合、[プログラムのメンテナンス (Program Maintenance)] ダイアログが表示されます。
 - [変更 (Modify)] を選択してローカルホストのインストール設定を変更するか、ローカルホストをリモートホストへのプッシュインストールを実行するためのプラットフォームとして使用します。
 - [修復 (Repair)] を選択して、NetBackup 10.1 をローカルホストで元の状態にリストアします。
 - NetBackup 10.1 をローカルホストから削除するには、[削除 (Remove)] を選択します。
- 7 [使用許諾契約 (License Agreement)] 画面で、次の操作を行います。

- [I agree to and accept the terms of the license agreement] にチェックマークを付けます。
ソフトウェアをアップグレードするにはこの項目を選択する必要があります。
- [次へ (Next)] をクリックします。

8 [Veritas NetBackup Installation Type] 画面で以下の情報を入力します。

Where to install	ローカルアップグレードの場合は、[Install to this computer only] を選択します。 リモートアップグレードの場合は、[Install to multiple computers on your network] を選択します。 クラスタアップグレードの場合は、[Install a clustered primary server] が唯一のオプションです。
Typical	デフォルト設定の NetBackup をアップグレードするには、このオプションを選択します。 メディアサーバーのみ: デフォルトでは、Typical オプションはメディアサーバーの構成を調べ、Java GUI と JRE パッケージが存在している場合のみアップグレードします。現在のメディアサーバーの状態以外の状態を強制的に実行する場合は、Custom を選択します。Java GUI と JRE を除外することを選択した場合は、以前のすべてのバージョンが削除されます。
Custom	NetBackup のデフォルト設定を強制変更するには、このオプションを選択します。

[次へ (Next)] をクリックします。

9 [NetBackup のライセンスとサーバーの種類 (NetBackup License and Server Type)] 画面で、次の情報を入力します。

- ライセンス
アップグレードの場合、すでにインストールされている製品のライセンスによって、選択可能なコンポーネントが決定されます。

メモ: リモートアップグレードの場合は、ここに入力したライセンスが他のノードにプッシュ型で転送されます。ライセンスによってアドオン製品を使用できるようになります。アドオン製品がすでにインストールされているノードに NetBackup をプッシュインストールした場合、ライセンスはアドオン製品に対して機能します。

リモートアップグレードまたはクラスタアップグレードの場合は、アップグレード処理中にアップグレードを実行する適切なクレデンシャルを所有していることを検証するために次の処理が実行されます。

- アップグレード先のクラスタシステムを選択すると、**NetBackup** はクラスタのすべてのノードに対する適切な管理クレデンシヤルを所有しているかどうかを確認します。適切なクレデンシヤルを所有していない場合は、そのシステムはリストに追加されません。
 - 適切なクレデンシヤルを所有している場合は、**NetBackup** によるセカンドチェックでライセンスが必要かどうか判断されます。必要なライセンスが入力されなかった場合は、そのシステムはリストに追加できません。そのノードでアップグレードするには有効なライセンスを入力する必要があります。無効なライセンスを入力すると、この画面は有効なライセンスを入力するまで表示されたままになります。
 - **[NetBackup プライマリサーバー (NetBackup Primary Server)]** をクリックしてプライマリサーバーソフトウェアのアップグレードを続行します。
 - **[NetBackup メディアサーバー (NetBackup Media Server)]** をクリックしてメディアサーバーソフトウェアのアップグレードを続行します。メディアサーバーのアップグレードにライセンスは必要ありません。
- 10** (該当する場合) リモートアップグレードでは、**[NetBackup** での **FIPS 準拠 (FIPS Compliance in NetBackup)]** ダイアログが表示されます。

NetBackup では、アップグレード中の **FIPS** モードの変更はサポートされていません。既存の **NetBackup** のバージョンで **FIPS** がサポートされている場合は、アップグレードの前に **FIPS** モードを有効にします。それ以外の場合は、アップグレード後に有効にします。

Windows のリモートアップグレード中に **FIPS** モードを有効または無効にしても、リモートホストの **NetBackup** の構成で既存の **FIPS** モード値が変更されることはありません。

FIPS について詳しくは、『**NetBackup** セキュリティおよび暗号化ガイド』を参照してください。

- 11 [カスタマ登録キー (Customer Registration Key)]画面で、カスタマ登録キーの場所を入力します。このファイルを Veritas Usage Insights サイトからダウンロードし、適切なプライマリサーバーに配置します。Veritas Usage Insights に関する詳しい情報を参照できます。

『[NetBackup アップグレードガイド](#)』を参照してください。

NetBackup 10.1 へのインストールとアップグレード中は、インストーラが `veritas_customer_registration_key.json` ファイルを最終的なインストール先にコピーするのを許可してください。NetBackup はこの処理を介してファイルの権限と所有権を正しく設定できます。インストールまたはアップグレード以外の処理でこのファイルをシステムに配置すると、処理は正しく動作しない可能性があります。

メモ: NetBackup では、カスタマ登録キーのファイル名に短いファイル名形式 (8.3 形式) を使用することはサポートされていません。

- 12 [NetBackup Web サービス (NetBackup Web Services)]画面で、[Web サービスパスワード (Web Services Password)]を入力します。

これは、NetBackup Web サービスのユーザーアカウントのパスワードです。このアカウントは、プライマリサーバーをインストールする前に作成する必要があります。詳細情報を参照できます。

[NetBackup Web サービス (NetBackup Web Services)]画面で、アカウントの種類とアカウントの詳細を指定します。

どの種類のアカウントを使用する
必要がありますか? (What
types of accounts should we
use?) [ローカル (Local)]または[ドメイン (Active Directory)
(Domain (Active Directory))]を選択します。

Web サーバーを、ローカルホストに存在するユーザーおよびグループアカウントに関連付ける場合は[ローカル (Local)]を選択します。

Web サーバーを、信頼済みの Windows ドメインに存在するユーザーおよびグループアカウントに関連付ける場合は [ドメイン (Active Directory) (Domain (Active Directory))] を選択します。

既存のアカウントの詳細とは何 次に示すように、情報を指定します。

ですか (What are the existing account details)

- [ドメイン (Domain)]: アカウントの種類を選択を [ドメイン (Active Directory) (Domain (Active Directory))] にする場合は、ユーザーおよびグループアカウントが属するドメインの名前を指定します。
- [グループ (Group)]: Web サーバーに関連付けるグループアカウントの名前を指定します。
- [ユーザー (User)]: Web サーバーに関連付けるユーザーアカウントの名前を指定します。セキュリティ上の理由により、ホストの管理者権限を持つユーザーアカウントを指定しないでください。
- [パスワード (Password)]: [ユーザー (User)] フィールドでユーザーアカウントのパスワードを指定します。

詳細情報を参照できます。

『[NetBackup アップグレードガイド](#)』を参照してください。

- 13** この手順はカスタムアップグレードにのみ適用されます。[Typical] インストールの場合は、次の手順へスキップします。

この手順では、[NetBackup Features]、[NetBackup Port Numbers]、および [NetBackup Services] を選択し構成する方法について記述します。

- **Java GUI および JRE オプション**
 (該当する場合: メディアサーバーのみ) アップグレードの内容に応じて、次のオプションが表示されます。
 - [Java GUI および JRE を含める (Include Java GUI and JRE)]: 指定したコンピュータで Java GUI と JRE コンポーネントをインストールまたはアップグレードします。
 - [Java GUI および JRE を除外する (Exclude Java GUI and JRE)]: 指定したコンピュータから Java GUI と JRE コンポーネントを除外します。既存の Java GUI および JRE コンポーネントは削除されます。
 - [既存の構成と合わせる (Match Existing Configuration)]: Java GUI と JRE コンポーネントの現在の状態を保持します。アップグレード前のシステムにコンポーネントが存在する場合、コンポーネントはアップグレードされます。アップグレード前のシステムにコンポーネントが存在しない場合、コンポーネントはインストールされません。
- **NetBackup ポート番号**
 構成に必要な場合は、この画面からポート番号を変更できます。
NetBackup と他社製品が同じポートを共有しようとして競合が発生した場合、ポート番号の変更が必要になることがあります。また、ファイアウォールでセキュリティの問題を引き起こすポートの競合が発生している場合にも変更できます。

ポート番号を変更するには、置き換えるポート番号を選択し、新しい番号を入力します。

[次へ (Next)]をクリックします。

■ NetBackup サービス

この画面で、次の NetBackup サービスの起動アカウントおよび起動の種類を指定します。

特権アカウントの詳細 (Privileged Account Details)

[ローカルシステムアカウント (Local System account)]または[カスタムアカウント (Custom account)]を指定します。

デフォルトでは、[ローカルシステムアカウント (Local System account)]が選択されるので、NetBackup は組み込みシステムアカウントを使います。このオプションを選択すると、その下のフィールドは無効になります。

異なるシステムアカウントを指定する方法

- [カスタムアカウント (Custom account)]を選択します。
- 次のフィールドにアカウント情報を入力します。

ドメイン (Domain)

ユーザー名 (Username)

パスワード (Password)

特権のないアカウントの詳細 (Non-Privileged Account Details)

先ほど指定した特権アカウントと同じアカウントまたはローカルサービスアカウントを指定します。

ローカルサービスアカウントを使用する場合、1 回限りの変換を行う必要があります。この変換により、カタログサイズに応じてアップグレード時間が大幅に増加する場合があります。

特権のないサービスユーザーアカウントについて詳しくは、次を参照してください。

<https://www.veritas.com/docs/100048220>

この情報は、プライマリサーバーのアップグレードにのみ適用されます。

スタートアップの種類 (Startup Type)

このオプションは、NetBackup ホストを再起動する必要がある場合、NetBackup サービスが自動的に開始するかどうかを判断します。デフォルトは[自動 (Automatic)]です。

再起動後、NetBackup サービスを手動で開始するには、[Manual]を選択します。

インストール後にジョブに関連 する NetBackup サービスを起 動する (Start job-related NetBackup services following installation)NetBackup

デフォルトでは、アップグレードが完了したらジョブに関連するサービスを自動的に開始する設定になっています。

ジョブに関連するサービスが自動的に開始しないようにするには、ボックスをクリックしてチェックマークをはずします。

安全な中止オプション (Safe Abort Option) このオプションは、アップグレードの一環として再起動が必要な場合にアップグレードを続行する方法を決めます。

このオプションを選択すると、アップグレード処理で再起動が必要であると判断された場合にアップグレードは停止します。システムは元の状態にロールバックされます。

このオプションを選択しないと、アップグレード処理で再起動が必要であると判断されてもアップグレードは続行されます。

[次へ (Next)]をクリックします。

14 [NetBackup System Names]画面で、次の情報を入力します。

プライマリサーバー名 (Primary Server Name) プライマリサーバーのインストールの場合は、ローカルコンピュータの名前を入力します。

メディアサーバーのインストールの場合は、この名前を、そのメディアサーバーが構成されるプライマリサーバー名に変更する必要があります。

メモ: クラスタサーバーの場合は、このフィールドは[NetBackup Virtual Host Name]です。Veritas はこの値を変更しないことを推奨します。

追加サーバー (Additional Servers) このサーバーと通信する追加の NetBackup プライマリサーバーおよびメディアサーバーの名前を入力します。後で NetBackup をインストールするコンピュータの名前を含めます。

複数の名前を入力するには、それぞれの名前をカンマで区切るか、それぞれの名前の後で Enter キーを押します。

メディアサーバー名 (Media server name) このフィールドは NetBackup Enterprise メディアサーバーのインストールの場合にのみ表示されます。

メディアサーバーソフトウェアをインストールする場合、このフィールドはデフォルトでローカルサーバー名になります。

[次へ (Next)]をクリックします。

15 (該当する場合: メディアサーバーのみ) 環境で外部認証局を使用している場合、[外部証明書 (External Certificate)]画面が表示されます。[外部証明書 (External Certificate)]画面で、外部認証局 (ECA) を構成する方法に基づいて、3 つのラジオボタンのいずれかを選択します。選択した方法に応じて、異なる情報を入力する必要があります。

- [Windows 証明書ストアの使用 (Use Windows certificate store)]

証明書の場所は、*Certificate Store Name¥Issuer Distinguished Name¥Subject Distinguished Name* のように入力する必要があります。

メモ: 証明書ストアを指定するときは、任意の名前に対して \$hostname 変数を使用できます。実行時に \$hostname 変数はローカルホストの名前を評価します。このオプションを使用すると、NetBackup ソフトウェアを多数のクライアントにプッシュインストールするときに柔軟性が高まります。

あるいは、**Windows** 証明書の場合をカンマ区切りのリストで指定できます。たとえば、MyCertStore¥IssuerName1¥SubjectName, MyCertStore¥IssuerName2¥SubjectName2, MyCertStore4¥IssuerName1¥SubjectName5 のように指定できます。

次に、表示されるラジオボタンから、証明書失効リスト (CRL) オプションを選択します。

- [証明書に定義されている CRL を使用する (Use the CRL defined in the certificate)]: 追加の情報は不要です。
- [次のパスにある CRL を使用する (Use the CRL at the following path)]: CRL のパスを入力するように求められます。
- [CRL は使用しない (Do not use a CRL)]
- [ファイルから証明書を使用する (Use certificate from a file)]

このオプションを選択した後、次を指定します。

 - [証明書ファイル (Certificate file)]: このフィールドには、証明書ファイルへのパスと証明書のファイル名を指定する必要があります。
 - [トラストストアの場所 (Trust store location)]: このフィールドには、トラストストアへのパスとトラストストア名を指定する必要があります。
 - [秘密鍵のパス (Private key path)]: このフィールドには、秘密鍵ファイルへのパスと秘密鍵のファイル名を指定する必要があります。
 - [パスフレーズファイル (Passphrase file)]: このフィールドでは、パスフレーズファイルへのパスとパスフレーズのファイル名を指定する必要があります。このフィールドは必要に応じて指定します。
 - [CRL オプション (CRL option)]: お使いの環境の正しい CRL オプションを指定します。
 - [証明書に定義されている CRL を使用する (Use the CRL defined in the certificate)]: 追加の情報は不要です。
 - [次のパスにある CRL を使用する (Use the CRL at the following path)]: CRL のパスを入力するように求められます。
 - [CRL は使用しない (Do not use a CRL)]
 - [セキュリティなしで続行 (Proceed without security)]

潜在的な問題を一覧表示する警告メッセージが表示されます。現在のセキュリティ構成の状態に応じて、外部 CA 証明書が構成されるまで、NetBackup がバックアップやリストアを実行できない場合があります。

[次へ (Next)]をクリックして続行します。

- 16** リモートアップグレードの場合のみ、[Veritas NetBackup Remote Hosts]画面で NetBackup をインストールするホストを指定します。

- Windows Destination Systems

[Windows Destination Computers]を右クリックし、ドロップダウンメニューから選択するか、次の方式を使ってください。

参照 (Browse)

NetBackup をアップグレードするホストのネットワークを検索するには、ここをクリックします。

- [Available Systems]ダイアログボックスで追加するコンピュータを選択し、[次へ (Next)]をクリックします。
- [Remote Computer Login Credentials]ダイアログボックスで、リモートコンピュータで使う NetBackup のアカウントのユーザー名、パスワード、ドメインを入力します。
- 複数のリモートコンピュータをアップグレードする場合は、[Remember User Name and Password]の隣にあるチェックボックスにチェックマークを付けます。このオプションを選択すると、各リモートコンピュータにこの情報を入力する必要がなくなります。

クレデンシャルを指定したらホストノードを選択し、[Windows Destination Systems]リストに追加します。NetBackup のリモートアップグレードは、これらのノードで実行されます。インストール先のシステムを選択する場合、ローカルホストも忘れずに選択してください。

NetBackup では、システムを選択するたびに、システムおよびライセンスの確認が実行されます。たとえば、次のようにサーバーアップグレード先のシステムが選択した種類と一致するかどうかを確認されます。

- NetBackup がインストールされていない場合: リモートは検証済みと見なされます。
- NetBackup がすでにインストールされている場合: そのシステムのアップグレードの種類と要求しているアップグレードの種類を比較します。
- 無効な組み合わせの場合: 問題があることが通知され、そのシステムは選択できません。無効な組み合わせの例として、すでにプライマリサーバーになっているリモートシステムにリモート管理コンソールをインストールしようとしている場合があります。
- リモートシステムがサポート外のプラットフォームやレベルの場合: 問題が通知され、そのシステムは選択できません。

アップグレード手順で、リモートシステムに対する適切な管理クレデンシャルを所有しているかどうかも検証されます。管理クレデンシャルを所有していない場合は、[Enter Network Password]画面が表示され、管理者のユーザー名およびパスワードの入力を求められます。

[OK]をクリックし、インストール先のシステムの選択を続けます。

選択するノードごとに、この処理を繰り返します。ユーザー名およびパスワードは保持することができます。その場合、ユーザー名またはパスワードが無効な場合にのみ、そのユーザー名またはパスワードが求められるようになります。

次に、クラスタ環境でのプッシュインストールに関連する注意事項を示します。

- NetBackup は、複数のノードでアップグレードできます。ただし、クラスタのノード数に対する制限は、NetBackup ではなくクラスタサービスによって設定されます。
- 言語パッケージとその他の NetBackup のアドオン製品は、プッシュ方式ではアップグレードできません。アドオン製品は、クラスタグループのノードごとにアップグレードする必要があります。これらの製品のアップグレード方法については、各製品の NetBackup マニュアルを参照してください。

参照 (Browse) (続き)

(続き)

- **NetBackup** は、アップグレードの開始時に入力したライセンスのみを他のノードにプッシュ型で転送します。ライセンスによってアドオン製品を使用できるようになります。アドオン製品がすでにインストールされているノードに **NetBackup** をプッシュインストールすると、ライセンスはその製品に対して機能します。
- **[OK]** をクリックします。

インポート (Import)

ホスト名のリストを含んでいるテキストファイルをインポートするためにここをクリックします。テキストファイルを作成する場合、ホスト名は次の形式で定義する必要があります。

Domain¥ComputerName

追加 (Add)

ホストを手動で追加するためにここをクリックします。

- **[Manual Remote Computer Selection]** ダイアログボックスが表示されたら、**[Domain]** と **[Computer Name]** を入力し、**[OK]** をクリックします。
- **[Remote Computer Login Credentials]** ダイアログボックスで、リモートコンピュータでアップグレードを実行するために使うアカウントの **[User Name]** と **[Password]** を入力します。
複数のリモートコンピュータに追加、アップグレードする場合は、**[Remember User Name and Password]** の隣にあるチェックボックスにチェックマークを付けます。このオプションを選択すると、各リモートコンピュータにこの情報を入力する必要がなくなります。
- **[OK]** をクリックします。

削除 (Remove)

[Destination Systems] リストからホストを削除するには、ホストを選択し、ここをクリックします。

変更 (Change)

選択したリモートホストの **NetBackup** ファイルのインストールの宛先を変更するためにここをクリックします。

- **[次へ (Next)]** をクリックします。

- 17** クラスタアップグレードの場合のみ、**[Cluster Settings]** 画面に表示される情報を確認します。単なる情報として **[パブリックネットワーク]** 以外のすべての情報が表示されます。パブリックネットワークを変更する必要がある場合は、ドロップダウンリストから正しいパブリックネットワークを選択します。

警告: このクラスタに割り当てられているプライベートネットワークは選択しないでください。

[Cluster Configuration] をクリックします。クラスタ構成が正常に行われたことを示すメッセージが表示されたら、**[次へ (Next)]** をクリックします。

- 18 (該当する場合: プライマリサーバーのみ) カタログのサイズによっては、無制限の保持変換を続行するように求められることがあります。

9.0 より前の NetBackup から NetBackup 9.0 以降へのアップグレードには、無制限の有効期限変換が含まれます。この変換は、2038 年より先の有効期限をサポートします。この変換によって、アップグレードを完了するために必要な時間が長くなる場合があります。詳しくは、次の記事を参照してください。

https://www.veritas.com/content/support/en_US/article.100048600

- 19 [Ready to Install the Program] 画面で、前述の手順での選択を示す [Installation Summary] を確認します。

ECA 健全性チェックユーティリティで CSP (暗号サービスプロバイダ) または KSP (キーストレージプロバイダ) がセキュリティ記述子をサポートしていないことが示された場合、アップグレードは続行できません。

このフラグは、NetBackup サービスがローカルサービスユーザーアカウントのコンテキストで実行されている場合、プロバイダを使用できないことを示します。セキュリティ記述子をサポートしているプロバイダを使用するか、管理者アカウントを使用してすべての NetBackup サービスを実行してください。

サービスユーザーアカウントについて詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』の「NetBackup サービスがローカルサービスアカウントのコンテキストで実行されている場合の Windows 証明書ストアの制限事項」の情報を参照してください。

- 20 次のオプションのいずれかを選択します。

- インストールを開始するには、[Install] をクリックします。
- 前の画面を表示して変更するには [Back] をクリックし、その後、この画面に戻って [Install] をクリックします。
- アップグレードを中止するには、[Cancel] をクリックします。

[Install] をクリックするとアップグレード処理が開始され、アップグレードの進捗状況を示す画面が表示されます。この処理には数分かかる場合があります。

リモートアップグレードまたはクラスタアップグレードの場合のみ、ダイアログボックスでシステムを右クリックしてアップグレードの状態を確認します。アップグレードは 5 つまで並行して行われます。1 つのアップグレードが完了すると別のアップグレードが開始し、最大 5 つのアップグレードが進行中になります。

- 21 リモートアップグレードの場合のみ、すべてのリモートアップグレードが完了したら [完了 (Finish)] をクリックします。

- 22 [Installation Complete] 画面で、次のオプションから選択します。

Add Licenses

[Add Licenses]は、プライマリサーバーにのみ適用できます。

Veritas はインストールする他の NetBackup 製品の追加のライセンスをここに入力することをお勧めします。

- 追加のライセンスを入力するには、[Add Keys]をクリックします。
- [Current License Keys]のリストが表示されたら、[Add Key]をクリックして新規のライセンスキーを入力し、次に[Add]をクリックします。
- すべてのライセンスキーを入力したら、[Current License Keys]ウィンドウを閉じます。

View installation log file

アップグレードログファイルには、詳しいインストール情報とエラーが発生したかどうかが表示されます。このログには、Java GUI と JRE のオプションインストールについての情報が含まれています。

次の場所にあるアップグレードログを確認します。

```
%ALLUSERSPROFILE%\Veritas\NetBackup\InstallLogs\
```

メモ: 複数のコンピュータにリモートアップグレードを実行する場合は、このオプションを選択するとローカルコンピュータのログのみが表示されます。アップグレードするように選択した各コンピュータにそれぞれのアップグレードログファイルが作成されます。リモートコンピュータのログファイルを表示するためには、Windows エクスプローラのウィンドウを開き、`%%<COMPUTERNAME>` と入力します。

アップグレードログを検索し、次のエラーが表示されているかどうかを確認します。

- Return Value 3 を含む文字列。
- 次のように色分けされている重大なログメッセージ:
黄色 = 警告。
赤 = エラー。

[完了 (Finish)]

アップグレードを完了するには次のいずれかの操作をします。

- すべてのサーバーのソフトウェアをアップグレードした場合は、[Launch NetBackup Administration Console now]の隣にあるチェックボックスにチェックマークを付けて[完了 (Finish)]をクリックします。
NetBackup 管理コンソールを使用して構成ウィザードを起動すると、NetBackup 環境を構成できます。
- アップグレードするサーバーソフトウェアが他にも存在する場合は、[完了 (Finish)]をクリックします。
次のコンピュータに移動して、必要なサーバーソフトウェアをアップグレードできます。

23 NetBackup クラスタ設定を手動で修正した場合や外部スクリプトで修正した場合は、NetBackup クラスタレジストリに変更が正しく反映されていることを確認してください。質問がある場合は、Veritas のテクニカルサポートにお問い合わせください。

24 バイナリが正常にインストールされました。インストール後の手順に進みます。

NetBackup 10.1 へのアップグレードのインストール後の手順

「[NetBackup 10.1 へのアップグレードのインストール後の手順](#)」では、NetBackup をアップグレードしてイメージメタデータの移行を完了するためのインストール後の手順を説明します。

NetBackup 10.1 へのアップグレードのインストール後の手順

- 1 利用可能な NetBackup 10.1 メンテナンスリリースを確認します。メンテナンスリリースは NetBackup 10.1 の後にリリースされる非常に重要な修正が含まれます。Veritas はアップグレードアクティビティ時に最新の利用可能なメンテナンスリリースをインストールすることを推奨します。

最新の NetBackup 10.1 メンテナンスリリースにアクセスする方法

- NetBackup SORT の Web サイトに移動します。
<https://sort.veritas.com/netbackup>
- [インストールとアップグレードのチェックリスト (Installation and Upgrade Checklist)] セクション:
 - [製品 (Product)] で、正しい製品 (NetBackup Enterprise Server または NetBackup Server) を選択します。
 - [これからインストールまたはアップグレードする製品のバージョン (Product version you are installing or upgrading to)] で、NetBackup 最新バージョンを指定します。
 - [プラットフォーム (Platform)] で、アップグレードするサーバーのプラットフォームを選択します。
 - [プロセッサ (Processor)] で、サーバーのプロセッサを指定します。
 - [アップグレードされる製品のバージョン (Product version you are upgrading from (Optional))] で、アップグレードするサーバーの NetBackup の現在のバージョンを選択します。
 - [チェックリストの生成 (Generate Checklist)] をクリックします。
- [アップグレード情報 (Upgrade Information)] に *version_number* [ダウンロードリンク (Download Links)] のハイパーリンクがあります。メンテナンスリリースのハイパーリンクをクリックします。
- メンテナンスリリースが利用できない場合は、bprd を終了後に再起動します。bprd が再起動したら続行します。
Linux の場合: `/usr/opensv/netbackup/bin/bprd`
Windows の場合: `install_path¥NetBackup¥bin¥bprd`
- メンテナンスリリースが利用可能な場合は、すぐにダウンロードします。

- すべての NetBackup 処理およびサービスを停止して、インストールの準備をします。以下に示すコマンドを使います。
 UNIX および Linux の場合: `/usr/opensv/netbackup/bin/bp.kill_all`
 Windows の場合: `install_path¥NetBackup¥bin¥bpdown -f`
 - メンテナンスリリースをインストールします。
 - 以下のコマンドで NetBackup を再起動します。
 UNIX および Linux システムの場合:
`/usr/opensv/netbackup/bin/bp.start_all`
 Windows システムの場合: `install_path¥NetBackup¥bin¥bpup -f`
- 2 ディザスタリカバリパッケージのパスフレーズを設定します。パスフレーズを設定しないと、カタログバックアップが失敗します。詳細情報を参照できます。『NetBackup トラブルシューティングガイド』にある、パスフレーズについての情報を参照してください。
 - 3 役割ベースのアクセス制御 (RBAC) を使用する場合は、セキュリティ管理者を指定する必要があります。詳細情報を参照できます。
 『NetBackup Web UI セキュリティ管理者ガイド』を参照してください。
 - 4 NetBackup とやり取りするシステムのアプリケーションを開始します。この手順には、バックアップ中のデータベースまたはシステムコンポーネントが含まれます。
 - 5 (該当する場合) クラスタ化されたプライマリサーバーがある場合は、安全な通信のため非アクティブノードで証明書を生成します。詳細情報を参照できます。
 『NetBackup アップグレードガイド』を参照してください。
 - 6 (該当する場合) このサーバーがクラスタサーバーの場合は、クラスタ内の他のノードを更新します。次に示す標準のクラスタアップグレード処理により、クラスタ内のその他のプライマリサーバーノードを NetBackup 10.1 に更新できます。詳しくは、『NetBackup プライマリサーバーのクラスタ化管理者ガイド』を参照してください。
 NetBackup リソースがオンラインでない場合はオンラインにします。
<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>
 - 7 (該当する場合) 外部認証局 (ECA) を使用するプライマリサーバーまたは ECA 構成をスキップするメディアサーバーの場合は、今すぐ ECA を構成してください。詳細情報を参照できます。
https://www.veritas.com/support/en_US/article.100044300
 詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』で外部 CA と外部証明書の章を参照してください。

- 8 NetBackup 10.1 にアップグレードする必要があるメディアサーバーがある場合には、この時点でアップグレードできます。メディアサーバーのアップグレードを開始したら、メディアサーバーのアップグレードが完了するまでこの手順を続行しないでください。

メモ: NetBackup では、特定のユースケースで正しく機能するようにメディアサーバーでセキュリティ証明書が必要です。このトピックに関する詳細情報を参照できます。

『[NetBackup アップグレードガイド](#)』を参照してください。

このトピックに関する詳細情報を参照できます。

『[NetBackup アップグレードガイド](#)』を参照してください。

- 9 次の項目をこの順序で再度有効にします。
- すべてのディスクステージングストレージユニット。
 - すべての NetBackup ポリシー。
 - すべてのストレージライフサイクルポリシー (SLP)。
- 10 (該当する場合) お客様の環境でクラウドストレージを使用している場合、読み取りおよび書き込みのバッファサイズを更新する必要があります。詳細情報を参照できます。
- 『[NetBackup アップグレードガイド](#)』を参照してください。
- 11 (該当する場合) NetApp クラスタを使っている場合は、追加の手順が必要なことがあります。詳細情報を参照できます。
- 『[NetBackup アップグレードガイド](#)』を参照してください。
- 12 (該当する場合) SSL が有効なクラウドとストレージサーバーについては、CRL の検証はデフォルトで有効になっています。ストレージサーバーが実行中で、CRL 機能が正しく動作していることを確認します。詳細情報を参照できます。
- 『[NetBackup クラウド管理者ガイド](#)』を参照してください。
- 13 (該当する場合) Amazon の構成では、NetBackup と CloudPoint を最新バージョンにアップグレードした後、クレデンシャルを更新する必要があります。tpconfig -update コマンドを実行します。アップグレード後に、クレデンシャルが AWS IAM ロールのみをサポートするように更新されます。詳細情報を参照できます。
- 『[NetBackup クラウド Web UI 管理者ガイド](#)』を参照してください。
- 14 バックアップ環境を監視し、通常の NetBackup 操作が再開されていることを確認します。

- 15 所要時間とバックアップ時間帯の許容範囲内で、まだアップグレードしていないメディアサーバーとクライアントをアップグレードします。クライアントをアップグレードする前に、メディアサーバーをアップグレードしてください。NetBackup 8.1 クライアントを 8.1 以前のメディアサーバーにバックアップまたはリストアすることはできません。

『NetBackup アップグレードガイド』を参照してください。

クライアントのアップグレードはクライアントのインストールと同じです。インストールのヘルプについては、『NetBackup インストールガイド - UNIX および Windows』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

メモ: すべてのスクリプトは、ローカルに格納してローカルで実行する必要があります。すべてのユーザーにスクリプトの書き込み権限を与えることは推奨しません。ネットワークまたはリモートの場所からスクリプトを実行することは許可されません。

NetBackup をアンインストールする際は、NetBackup の db_ext (UNIX の場合) または dbext (Windows の場合) に格納されている作成済みのスクリプトを保護する必要があります。

承認を受けた場所とスクリプトについて詳しくは、ナレッジベースの記事を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000126002>

お使いのデータベースエージェントについて詳しくは、当該エージェントに関するマニュアルを確認してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

- 16 (該当する場合) NAT が有効になっている NetBackup 8.2 Linux クラスタを最新バージョンにアップグレードする場合、アップグレードによって NAT が無効になります。NAT を有効にし、NetBackup クラスタグループに追加された nbmqbroker サービスをクラスタで監視できるようにするには、次のコマンドを実行します。

- デフォルトのポートを使用して構成するには:

```
configureMQ -enableCluster -defaultPorts
```

- 特定のポートを使用して構成するには:

```
configureMQ -enableCluster -externalPort port1 -internalPorts  
port2port3port4
```

- 17 その他のアップグレード手順を実行します。このトピックに関する詳細情報を参照できます。

『NetBackup アップグレードガイド』を参照してください。

UNIX/Linux アップグレード クイックスタートガイド

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 10.1 へのアップグレードのプレインストール手順](#)
- [NetBackup 10.1 への Linux サーバーソフトウェアのアップグレード](#)
- [NetBackup 10.1 へのアップグレードのインストール後の手順](#)

NetBackup 10.1 へのアップグレードのプレインストール手順

次の手順を使って環境を NetBackup 10.1 にアップグレードします。

ガイド付き方式に必要な追加手順を実行できるようにするいくつかのツールを使用できます。詳しくは、**Business Critical Services (BCS)** の担当者にお問い合わせください。

NetBackup アップグレードに RHEL 7.5 へのアップグレードが含まれており、ファイバートランスポートメディアサーバー (FTMS) を使用する場合には、追加の手順が必要になります。詳細情報を参照できます。

『[NetBackup アップグレードガイド](#)』を参照してください。

メモ: Global Cluster Option (GCO) を使ってグローバルにクラスタ化されたプライマリサーバーを含む NetBackup のインストールでは、このマニュアルのアップグレード計画のガイドラインに従ってください。これらのサーバーをアップグレードする手順については、次のドキュメントを参照してください:

https://www.veritas.com/support/en_US/article.100041191

NetBackup 10.1 にアップグレードしてイメージメタデータの移行を完了するためのインストール前手順

- 1 SORT ツールを使用して環境チェックを実行します。
[『NetBackup アップグレードガイド』](#)を参照してください。
- 2 Veritas Usage Insights のカスタマ登録キーをダウンロードします。Veritas Usage Insights に関する詳しい情報を参照できます。
[『NetBackup アップグレードガイド』](#)を参照してください。

NetBackup 10.1 へのインストールとアップグレード中は、インストーラが `veritas_customer_registration_key.json` ファイルを最終的なインストール先にコピーするのを許可してください。NetBackup はこの処理を介してファイルの権限と所有権を正しく設定できます。インストールまたはアップグレード以外の処理でこのファイルをシステムに配置すると、処理は正しく動作しない可能性があります。

- 3 (該当する場合) Linux で、NetBackup データベースファイルが `btrfs` ファイルシステムに存在する場合、アップグレードの前に、サポートされているファイルシステム (`ext4` または `xfs` など) にデータベースファイルを移動します。`btrfs` ファイルシステムに NetBackup データベースを配置することはサポートされていません。データベースファイルは、プライマリサーバーのディレクトリ `/usr/opensv/db` に存在します。

Linux で NetBackup データベースファイルを移動するには:

- カタログバックアップを実行します。
- すべての NetBackup デーモンを停止します。
`/usr/opensv/netbackup/bin/bp.kill_all`
- SQL Anywhere デーモンを起動します。
`/usr/opensv/netbackup/bin/nbdbms_start_stop start`
- 既存のデータ、インデックス、トランザクションログファイルを移動します。
`/usr/opensv/db/bin/nbdb_move -data data_directory -index index_directory -tlog log_directory`
 ミラー化されたトランザクションログを使用する場合、次のコマンドを使用します。
`/usr/opensv/db/bin/nbdb_move -data data_directory -index index_directory -tlog log_directory -mlog log_mirror_directory`
- すべての NetBackup デーモンを起動します。
`/usr/opensv/netbackup/bin/bp.start_all`
- カタログバックアップを実行します。

- 4 (該当する場合) Windows の場合は、すべてのオペレーティングシステムの更新プログラムとセキュリティ更新プログラムを適用してください。詳細情報を参照できます。
[『NetBackup アップグレードガイド』](#)を参照してください。

5 NetBackup の各自の環境に応じて通常実行するアップグレード前のタスクを実行します。次に例を示します。

- すべてのカスタマイズされたスクリプトやサードパーティのスクリプトを停止します。
- クラスタ固有のタスクを実行します。
- ホットカタログバックアップを実行します。
- すべてのストレージライフサイクルポリシー (SLP) を無効にします。
- NetBackup のすべてのポリシーを無効にします。
- NetBackup 7.5.x より前のすべての環境ですべてのディスクステージングストレージユニットを無効にします。
- VMware と RHV (Red Hat Virtualization) 環境では、アップグレードする前にジョブデータベースのサイズを削減します。アップグレード後に、資産レベルでのアクセス制御を可能にするため、既存の VMware ジョブと RHV ジョブに資産の名前空間が割り当てられます。この処理には時間がかかる場合があります。このプロセスに関する詳細情報を参照できます。
[『NetBackup アップグレードガイド』](#)を参照してください。
- クラスタシステムの場合のみ、次の NetBackup リソースをオフラインにします。
 - Windows Server Failover Clusters (WSFC): ディスク、仮想名、仮想 IP アドレスを除くすべての NetBackup グループのリソースをオフラインにします。クラスタアドミニストレータインターフェースを使用して NetBackup グループのリソースをオフラインにする方法については、Microsoft のクラスタアドミニストレータに関するマニュアルを参照してください。
 - Veritas Cluster Server (VCS) クラスタ: NetBackup リソースをオフラインにします。
次のコマンドで NetBackup オプションを使用して `-persist` グループを固定します。

```
hagrp -freeze NetBackup_service_group -persistent
```

これらのリソースをオフラインで取得するコマンドについて詳しくは、『NetBackup プライマリサーバーのクラスタ化管理者ガイド』を参照してください。

6 (該当する場合) NetApp クラスタをノードスコープモードから Vserver モードに変更する場合は、各ファイラの詳しいイメージレポートを作成します。このレポートは `bpimagelist` コマンドを使って生成できます。次に利用可能なオプションの一例を挙げます。環境に合わせて必要なオプションを使います。

```
bpimagelist -client ndmp_host_name
```

- 7 NetBackup 8.0 より、NetBackup プライマリサーバーには、重要なバックアップ操作をサポートするための構成済み Tomcat Web サーバーが含まれます。この Web サーバーは、権限が制限されているユーザーアカウント要素の下で動作します。これらのユーザーアカウント要素は、各プライマリサーバー (またはクラスタ化されたプライマリサーバーの各ノード) で使用できる必要があります。詳細情報を参照できます。

『NetBackup アップグレードガイド』を参照してください。

メモ: ベリタスは、NetBackup Web サービスに使用するユーザーアカウントの詳細を保存することを推奨します。プライマリサーバーのリカバリでは、NetBackup カタログのバックアップが作成されたときに使われたものと同じ NetBackup Web サービスのユーザーアカウントとクレデンシヤルが必要です。

メモ: セキュアモードで NetBackup PBX を実行する場合は、Web サービスユーザーを PBX の権限を持つユーザーとして追加します。PBX モードの判別と、正しくユーザーを追加する方法については、次をご覧ください。

<http://www.veritas.com/docs/000115774>

- 8 (該当する場合) Tomcat Web サーバーの設定をカスタマイズした場合は、それらの設定がアップグレード後も維持されるかどうかを確認します。詳細情報を参照できます。

『NetBackup アップグレードガイド』を参照してください。

- 9 NetBackup とやり取りするシステムのすべてのアプリケーションを停止します。この手順には、バックアップ中のデータベースまたはシステムコンポーネントが含まれません。これらのアプリケーションの停止に失敗すると、予期しない動作が発生する可能性があります。観測される動作には中止されたアップグレードやアプリケーションエラーが含まれます。

Oracle ユーザーの場合は、バックアップが実行されていないことを確認します。NetBackup をインストールする前に、RMAN のプロセスを停止します。AIX を使用する場合、RMAN プロセスを停止した後、root ユーザーとして /usr/bin/slibclean を実行する必要があります。

Oracle データベースを停止できない場合、手順は Oracle データベースがアクティブのまま NetBackup をインストールできる手順を利用できます。このトピックに関する詳細情報を参照できます。

<http://www.veritas.com/docs/TECH158276>

- 10 NetBackup のすべてのサービスを停止します。

- UNIX システムの場合: /usr/openv/netbackup/bin/bp.kill_all

- Windows システムの場合: `install_path¥NetBackup¥bin¥bpdwn -f`

プレインストール手順は完了です。NetBackup のバイナリのアップグレードに進みます。

NetBackup 10.1 への Linux サーバーソフトウェアのアップグレード

バックアップが実行されない時間にアップグレードおよび再構成をスケジュールすることをお勧めします。ただし、アップグレードの手順では、バックアップがアップグレードの妨げにならないようにするため、すべてのポリシーを無効にするように指示されます。NetBackup のアップグレードおよび再構成中にバックアップが実行されないようにポリシーを一時的に変更することもできます。

Linux サーバーソフトウェアを 10.1 にアップグレードするには

- 1 root ユーザーとしてサーバーにログインします。
- 2 NetBackup 管理コンソールが開いている場合は、ここで閉じる必要があります。
- 3 (該当する場合) クラスタ環境では次のタスクを実行します。
 - 必要に応じて、`bp.conf` と `vm.conf` ファイルを次のように編集します。
`REQUIRED_INTERFACE` エントリがある場合は、`CLUSTER_NAME` エントリに置換します。それ以外の場合は、新しい `CLUSTER_NAME` エントリを追加します。このエントリは仮想サーバー名として定義する必要があります。
プライマリサーバーの場合は、最初の `SERVER` エントリが `bp.conf` ファイルの `CLUSTER_NAME` エントリに一致することを確認してください。
 - NetBackup サーバーリソース (**ServerResource**) をオフラインにします。以下に示すコマンドを使います。

```
/opt/VRTSvcs/bin/hares -offline ServerResource -sys $nodename
```
 - 非アクティブノードのアップグレード中に移行が行われないようにするために、NetBackup グループを凍結します。以下に示すコマンドを使います。

```
/opt/VRTSvcs/bin/hagrp -freeze group -persistent
```
 - VCS クラスタが構成されている場合、Cluster Manager インターフェースまたはコマンドラインを使用して NetBackup グループを凍結できます。
 - クラスタのアップグレードに進む前に、他のクラスタアップグレード要件について『NetBackup プライマリサーバーのクラスタ化管理者ガイド』を参照してください。
<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

- 4 アップグレードスクリプトを実行すると第 1 章で説明していない修正済み NetBackup スクリプトが削除されます。このトピックに関する詳細情報を参照できます。

『**NetBackup アップグレードガイド**』を参照してください。

変更したファイルで、保持する必要があるファイルを保存します。

- 5 インストールイメージが存在する場所に移動します。次のコマンドを入力して、アップグレードスクリプトを開始します。

```
./install
```

- 6 インストールスクリプトのプロンプトに従って、NetBackup サーバーバイナリをインストールします。

- 7 (該当する場合: プライマリサーバーのみ)メッセージが表示されたら、無制限の有効期限変換に関する質問に答えます。

```
NetBackup 9.0 and later versions support the retention periods
that
extend beyond the year 2038. To ensure compatibility with previous
```

```
NetBackup versions, all items with an infinite expiration date
are
updated to reflect the new infinite expiration date value. This
conversion may extend the time that is required to complete the
upgrade.
```

Review the following article for more information:

https://www.veritas.com/content/support/en_US/article.100048600

```
Date of collection: date_time
NetBackup state: online|offline
Records found: records
Conversion time estimate: time (hh:mm)
```

```
Please see the linked article to obtain a more accurate estimate
of how
long the conversion may take.
```

```
Would you like to continue with the upgrade? [y,n]
```

- 8 (該当する場合: プライマリサーバーのみ)メッセージが表示されたら、ほとんどのデーモンを起動するために使用するサービスユーザーアカウントの名前を指定します。このプロンプトは、インストーラが **bp.conf** ファイルからサービスユーザーの値を取得できない場合にのみ表示されます。

Enter the name of the service user account to be used to start most of the daemons

以下の点にご注意ください。

- サービスのユーザー名は 32 文字を超えることはできません。英語の文字のみを含めることができます。
- Veritas では、root ユーザーをサービスユーザーとして使用することはお勧めしません。
- nbwebsvc ユーザーをサービスユーザーとして使用することはできません。
- nbwebgrp グループはサービスユーザーのセカンダリグループである必要があります。
- /usr/opensv ディレクトリの所有権は、ここで指定する新しいサービスユーザーアカウントに変更されます。
- サービスアカウントを使用する場合、1 回限りの変換を行う必要があります。この変換により、カタログサイズに応じてアップグレード時間が大幅に増加する場合があります。
- インストール後にサービスユーザーアカウントを変更する場合は、`nbserveusercmd --changeUser` コマンドを使用します。

サービスユーザーアカウントについて詳しくは、次を参照してください。

<https://www.veritas.com/docs/100048220>

- 9 (該当する場合: メディアサーバーのみ) 環境で外部認証局を使用する場合は、表示されたプロンプトで外部認証局情報を入力します。

Enter the certificate file path or q to skip security configuration:
/usr/eca/cert_chain.pem

Enter the trust store location or q to skip security configuration:
/usr/eca/trusted/cacerts.pem

Enter the private key path or q to skip security configuration:
/usr/eca/private/key.pem

Enter the passphrase file path or q to skip security configuration
(default: NONE): /usr/eca/private/passphrase.txt

メモ: パスフレーズファイルのパスの入力は任意です。

- 10** (該当する場合: メディアサーバーのみ) プロンプトが表示されたら、CRL 構成に必要な情報を入力します。

```
Should a CRL be honored for the external certificate?
1) Use the CRL defined in the certificate.
2) Use the CRL from a file path.
3) Do not use a CRL.
q) skip security configuration
CRL option (1):
```

- 11** (該当する場合: メディアサーバーのみ) [ファイルパスの CRL を使用 (Use the CRL from a file path)]を指定した場合、CRL の場所のパスを入力する必要があります。

```
Enter the CRL location path or q to skip security configuration:

/usr/eca/crl
```

- 12** (該当する場合: メディアサーバーのみ) インストーラは入力された構成情報を再表示し、外部証明書の詳細の取得を試みます。

```
External CA values entered:
Certificate file path: /usr/eca/cert_chain.pem
Trust store file path: /usr/eca/trusted/cacerts.pem
Private key file path: /usr/eca/private/key.pem
Passphrase file path: /usr/eca/private/passphrase.txt
CRL check level: Use the CRL from a file path.
CRL location path: /usr/eca/crl

Getting external CA certificate details
    Issued By : CN=IITFRMNUSINT,O=Veritas,OU=iitf
    Subject Name : CN=cuomovm04,O=Veritas,OU=iitf
    Expiry Date : Oct 31 17:25:59 2019 GMT
    SHA1 Fingerprint : 62:B2:C3:31:D5:95:15:85:9D:C9:AE:C6:EA:C2:
                       DF:DF:6D:4B:92:5B
    Serial Number : 0x6c7fa2743072ec3eaae4fd60085d468464319a
    Certificate Path : /usr/eca/cert_chain.pem
```

Validating host ECA certificate.

NOTE: Depending on the network, this action may take a few minutes.

To continue without setting up secure communication, press Ctrl+C.

- 13** (該当する場合:メディアサーバーのみ) 外部証明書を登録するための事前チェックが正常に完了した場合は、**1** を選択し、**Enter** キーを押して続行します。

```
The external certificate enrollment pre-check is successful.
```

```
The external certificate is valid for use with primary server  
name
```

```
How do you want to proceed?
```

- 1) Continue the installation using this certificate.
- 2) Modify the external CA values entered.
- 3) Abort the installation.

```
Default option (1):
```

- 14** (該当する場合:メディアサーバーのみ) 外部証明書の登録の事前チェックが失敗した場合は、表示される選択肢から選択します。デフォルトは **2** です。

```
The external certificate enrollment pre-check failed.
```

```
The external certificate is not valid for use with primary server  
name
```

```
How do you want to proceed?
```

- 1) Continue the installation and set up external certificates later.
- 2) Modify the external CA values entered.
- 3) Abort the installation.

```
Default option (2):
```

- 15 (該当する場合: メディアサーバーのみ) プロンプトが表示されたら、アップグレードで Java GUI と JRE バイナリをどのように処理するかを指定します。

```
The Java GUI and JRE packages are currently install_state on this host.
```

```
The Java GUI and JRE can be optionally included with NetBackup. The Java GUI and JRE enable the NetBackup Administration Console and the Backup, Archive and Restore (BAR) GUI. Choose an option from the list below.
```

- 1) Update the Java GUI and JRE.
- 2) Remove the Java GUI and JRE.

1 を指定すると、サーバーの状態に基づいて Java および JRE のバイナリがインストールまたはアップグレードされます。2 を指定すると、サーバーの状態に基づいて Java および JRE のバイナリが削除または除外されます。

- 16 スクリプトが終了したら、バイナリが正常にインストールされています。インストール後の手順に進みます。

NetBackup 10.1 へのアップグレードのインストール後の手順

「[NetBackup 10.1 へのアップグレードのインストール後の手順](#)」では、NetBackup をアップグレードしてイメージメタデータの移行を完了するためのインストール後の手順を説明します。

NetBackup 10.1 へのアップグレードのインストール後の手順

- 1 利用可能な NetBackup 10.1 メンテナンスリリースを確認します。メンテナンスリリースは NetBackup 10.1 の後にリリースされる非常に重要な修正が含まれます。Veritas はアップグレードアクティビティ時に最新の利用可能なメンテナンスリリースをインストールすることを推奨します。

最新の NetBackup 10.1 メンテナンスリリースにアクセスする方法

- NetBackup SORT の Web サイトに移動します。
<https://sort.veritas.com/netbackup>
- [インストールとアップグレードのチェックリスト (Installation and Upgrade Checklist)] セクション:
 - [製品 (Product)] で、正しい製品 (NetBackup Enterprise Server または NetBackup Server) を選択します。

- [これからインストールまたはアップグレードする製品のバージョン (Product version you are installing or upgrading to)]で、NetBackup 最新バージョンを指定します。
 - [プラットフォーム (Platform)]で、アップグレードするサーバーのプラットフォームを選択します。
 - [プロセッサ (Processor)]で、サーバーのプロセッサを指定します。
 - [アップグレードされる製品のバージョン (Product version you are upgrading from (Optional))]で、アップグレードするサーバーの NetBackup の現在のバージョンを選択します。
 - [チェックリストの生成 (Generate Checklist)]をクリックします。
 - [アップグレード情報 (Upgrade Information)]に `version_number`[ダウンロードリンク (Download Links)] のハイパーリンクがあります。メンテナンスリリースのハイパーリンクをクリックします。
 - メンテナンスリリースが利用できない場合は、`bprd` を終了後に再起動します。`bprd` が再起動したら続行します。
 Linux の場合: `/usr/opensv/netbackup/bin/bprd`
 Windows の場合: `install_path¥NetBackup¥bin¥bprd`
 - メンテナンスリリースが利用可能な場合は、すぐにダウンロードします。
 - すべての NetBackup 処理およびサービスを停止して、インストールの準備をします。以下に示すコマンドを使います。
 UNIX および Linux の場合: `/usr/opensv/netbackup/bin/bp.kill_all`
 Windows の場合: `install_path¥NetBackup¥bin¥bpdown -f`
 - メンテナンスリリースをインストールします。
 - 以下のコマンドで NetBackup を再起動します。
 UNIX および Linux システムの場合:
`/usr/opensv/netbackup/bin/bp.start_all`
 Windows システムの場合: `install_path¥NetBackup¥bin¥bpup -f`
- 2 ディザスタリカバリパッケージのパスフレーズを設定します。パスフレーズを設定しないと、カタログバックアップが失敗します。詳細情報を参照できます。『NetBackup トラブルシューティングガイド』にある、パスフレーズについての情報を参照してください。
- 3 役割ベースのアクセス制御 (RBAC) を使用する場合は、セキュリティ管理者を指定する必要があります。詳細情報を参照できます。
 『NetBackup Web UI セキュリティ管理者ガイド』を参照してください。
- 4 NetBackup とやり取りするシステムのアプリケーションを開始します。この手順には、バックアップ中のデータベースまたはシステムコンポーネントが含まれます。

- 5 (該当する場合) クラスタ化されたプライマリサーバーがある場合は、安全な通信のため非アクティブノードで証明書を生成します。詳細情報を参照できます。

『NetBackup アップグレードガイド』を参照してください。

- 6 (該当する場合) このサーバーがクラスタサーバーの場合は、クラスタ内の他のノードを更新します。次に示す標準のクラスタアップグレード処理により、クラスタ内のその他のプライマリサーバーノードを NetBackup 10.1 に更新できます。詳しくは、『NetBackup プライマリサーバーのクラスタ化管理者ガイド』を参照してください。

NetBackup リソースがオンラインでない場合はオンラインにします。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

- 7 (該当する場合) 外部認証局 (ECA) を使用するプライマリサーバーまたは ECA 構成をスキップするメディアサーバーの場合は、今すぐ ECA を構成してください。詳細情報を参照できます。

https://www.veritas.com/support/en_US/article.100044300

詳しくは、『NetBackup セキュリティおよび暗号化ガイド』で外部 CA と外部証明書の章を参照してください。

- 8 NetBackup 10.1 にアップグレードする必要があるメディアサーバーがある場合には、この時点でアップグレードできます。メディアサーバーのアップグレードを開始したら、メディアサーバーのアップグレードが完了するまでこの手順を続行しないでください。

メモ: NetBackup では、特定のユースケースで正しく機能するようにメディアサーバーでセキュリティ証明書が必要です。このトピックに関する詳細情報を参照できます。

『NetBackup アップグレードガイド』を参照してください。

このトピックに関する詳細情報を参照できます。

『NetBackup アップグレードガイド』を参照してください。

- 9 次の項目をこの順序で再度有効にします。
- すべてのディスクステージングストレージユニット。
 - すべての NetBackup ポリシー。
 - すべてのストレージライフサイクルポリシー (SLP)。
- 10 (該当する場合) お客様の環境でクラウドストレージを使用している場合、読み取りおよび書き込みのバッファサイズを更新する必要があります。詳細情報を参照できます。

『NetBackup アップグレードガイド』を参照してください。

- 11 (該当する場合) NetApp クラスタを使っている場合は、追加の手順が必要なことがあります。詳細情報を参照できます。

『NetBackup アップグレードガイド』を参照してください。

- 12 (該当する場合) SSL が有効なクラウドとストレージサーバーについては、CRL の検証はデフォルトで有効になっています。ストレージサーバーが実行中で、CRL 機能が正しく動作していることを確認します。詳細情報を参照できます。

『NetBackup クラウド管理者ガイド』を参照してください。

- 13 (該当する場合) Amazon の構成では、NetBackup と CloudPoint を最新バージョンにアップグレードした後、クレデンシャルを更新する必要があります。tpconfig -update コマンドを実行します。アップグレード後に、クレデンシャルが AWS IAM ロールのみをサポートするように更新されます。詳細情報を参照できます。

『NetBackup クラウド Web UI 管理者ガイド』を参照してください。

- 14 バックアップ環境を監視し、通常の NetBackup 操作が再開されていることを確認します。

- 15 所要時間とバックアップ時間帯の許容範囲内で、まだアップグレードしていないメディアサーバーとクライアントをアップグレードします。クライアントをアップグレードする前に、メディアサーバーをアップグレードしてください。NetBackup 8.1 クライアントを 8.1 以前のメディアサーバーにバックアップまたはリストアすることはできません。

『NetBackup アップグレードガイド』を参照してください。

クライアントのアップグレードはクライアントのインストールと同じです。インストールのヘルプについては、『NetBackup インストールガイド - UNIX および Windows』を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

メモ: すべてのスクリプトは、ローカルに格納してローカルで実行する必要があります。すべてのユーザーにスクリプトの書き込み権限を与えることは推奨しません。ネットワークまたはリモートの場所からスクリプトを実行することは許可されません。

NetBackup をアンインストールする際は、NetBackup の db_ext (UNIX の場合) または dbext (Windows の場合) に格納されている作成済みのスクリプトを保護する必要があります。

承認を受けた場所とスクリプトについて詳しくは、ナレッジベースの記事を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000126002>

お使いのデータベースエージェントについて詳しくは、当該エージェントに関するマニュアルを確認してください。

<http://www.veritas.com/docs/DOC5332>

- 16** (該当する場合) NAT が有効になっている NetBackup 8.2 Linux クラスタを最新バージョンにアップグレードする場合、アップグレードによって NAT が無効になります。NAT を有効にし、NetBackup クラスタグループに追加された nbmqbroker サービスをクラスタで監視できるようにするには、次のコマンドを実行します。
- デフォルトのポートを使用して構成するには:
`configureMQ -enableCluster -defaultPorts`
 - 特定のポートを使用して構成するには:
`configureMQ -enableCluster -externalPort port1 -internalPorts port2port3port4`
- 17** その他のアップグレード手順を実行します。このトピックに関する詳細情報を参照できます。

『[NetBackup アップグレードガイド](#)』を参照してください。